

自己点検評価表

(縦2枚を横に並べてご覧ください)

目的	事業	令和元年度事業内容	令和元年度活動指標	実績		今後の対策等	活動状況評価	
1. 高等教育機関の教育・研究の充実のための基盤整備	進学ガイダンスセミナー事業	コンソーシアム加盟教育機関による模擬授業の開講と、各大学入試担当者による進学相談コーナーを開設による高校生の進学に対する疑問や質問を解消する取組みを実施する。保護者・高校教員向け講演会も実施し、多面的な進学支援を行う。	模擬授業数24講座 進学ガイダンスセミナー参加者数1,100人	7月7日(日)に崇城大学にて開催 模擬授業数 24講座 参加者数 1,046人	達成1 未達1	当初の計画通り実施できた。活動指標の講座数を開設し、参加者数もほぼ目標数の参加を得た。	県内の高校生を対象としたものであるが九州管内の高校へもチラシを郵送して周知しており県外から保護者とともに参加する高校生もいるので県外へのPRを強化する。	B
2. 地域の行政や産業界と連携	インターンシップ連携事業	次代を担う熊本県内の高等教育機関の学生が、熊本県内の企業や団体等の職場において就業体験を実施することにより、地域経済や企業活動への理解を深め、就職意識の醸成・向上することを目的として実習プログラムの内容はオリエンテーションや経営陣との懇談、配属部署内での職種体験、実習の講評や実習生の発表を行う。	受け入れ先企業・団体／派遣実習生数 夏季100社・春季50社 夏季250人・春季50人	夏季受入承諾企業 106社 春季受入承諾企業 44社 夏季派遣実習生 175人 春季派遣実習生 57人	達成2 未達2	当初の計画通り、夏季・春季のインターンシップを実施することはできたが企業・団体からの受け入れ枠が増加しているにもかかわらず派遣実習生が減少した。	就職情報サイトを活用したインターンシップに企業・学生共に流れる傾向にあるが、各大学と連携し、学内掲示ポスターを作成・掲示、コンソのインターンシップ事業の認知度を上げるとともに、低学年(1・2年生)への参加案内を強化する。	B
	キャンパスパレア	熊本県生涯学習推進センターが主催する、一般市民向け開講の、くまもと県民カレッジリレー講座「キャンパスパレア」において、加盟機関から教員を派遣している。所属機関の特色を出し、一般市民の興味を持つテーマの講座を開設する。	受講希望者数460人	15講座 参加者数 530人	達成1 未達0	当初の計画を上回る講座数を開設することができ、活動指標の参加者数を上回る参加者があった。	今後も加盟機関に対し、特色を出した魅力ある講座の開設を依頼する。	S
	教育のあり方に関する協議	加盟教育機関と熊本県・熊本市などの自治体とで、熊本県の教育政策とコンソーシアムの事業との整合性や共同の取組みについて協議する。地域に必要な人材像や地域の課題について認識を共有する。	協議の実施回数3回	1回目 9月30日(月)開催	達成0 未達1	協議実施回数3回を活動指標に、第1回会議でコンソの中期計画に示す指針が地域に求められる教育に沿っているか、雇用創出・若者定着などの課題を含め協議したが、その後の開催ができなかった。	企画・運営委員会の協議事項としているが、コンソに設置している各種委員会等と連携するとともに、課題を絞りWG等立ち上げ協議を進める。	C
3. 地域社会の教育・文化の向上・発展	ワンストップ窓口業務	留学生の相談受付、ワークショップの開催、国際交流振興事業団主催の留学生と話そうサロンへの在学留学生の講師派遣など、熊本県内における留学生情報や事業活用の拠点として活動する。	ワークショップ開催件数5件	2件開催 面接対策講座 6名 食品サンプル作り13名	達成0 未達1	ワークショップ開催件数5件の活動指標に対し、主催したイベントは2件であったが、他機関主催のイベントへの共催・後援等を4件実施、留学生への周知・募集を行った。	他機関とイベント内容を調整しながら主催イベントを企画、5件開催を目指す。	B
	SNS等を活用した留学生ネットワークの構築	熊本への留学を希望する学生を増やすことを目的に、留学生同士のネットワークを利用し、熊本大学の魅力を伝える情報発信を行う。在学留学生に対しては、熊本への愛着を深めることを目的とし、生活やイベント情報を効果的に発信し地域への活動への参加を促す。	アクセス数 20,000件 コミュニティ参加者数 420人	アクセス数 35,458件 コミュニティ参加者数 603人	達成2 未達0	アクセス数及びコミュニティ参加者数ともに活動指標を大幅に上回った。	SNSでの発信(他機関投稿のシェアを含む)を増やしたためと思われるので、今後も継続して有益な情報を発信していく。	S
	留学生のための“学モン都市クマモト”ツアー	九州地区の日本語学校等で勉強している外国人留学生に対し、熊本の大学を見学してもらい熊本で学ぶことの良さを知ってもらう。事業の周知及び情報収集を目的として、九州内の日本語学校を訪問し、県内大学への留学生の誘致活動を行う。	参加者数50人 日本語学校の訪問数10校	10/20 開催 参加者数 117人 日本語学校 8校訪問	達成1 未達1	日本語学校訪問数が活動指標10校より少ない8校であったが、未訪問の2校については担当者との都合がつかず訪問できなかったものである。ただし、この2校については、後日、福岡市で開催された留学を希望する日本語学校学生向け進学相談会において、熊本大学のアピールや情報交換を行い、直接訪問と同等な活動を行っている。	福岡を中心に大学進学者の多い日本語学校を訪問、また、福岡で開催の留学生進学相談会へ参加し、学モンツアーの告知を行った。今後も継続して取り組んでいく。 なお、ツアー参加者の受験・入学状況の調査を行う。	A
	多言語による情報発信	HPの英語・中国語・韓国語に翻訳して掲載しているが、加盟機関のHPとリンクさせ、各機関の情報を海外に向けて発信できる体制を構築、継続する。日本語・英語・中国語併記のリーフレットを作成し、各機関の協定校や海外オフィスでの配布を依頼し、福岡地区を中心に九州の日本語学校にも配布する。	リーフレットの配布先 40件	35校へ発送	達成0 未達1	大学進学率の高い日本語学校に絞って送付のため目標数に達しなかった。	リーフレットを更新し、九州地区以外の日本語学校も含め、熊本への進学の可能性のある日本語学校への送付、また、加盟機関の協定校などへの送付も検討する。	B
	環境整備活動	本コンソーシアムと地域との連携や地域への協力をアピールするとともに、江津湖湧水清掃等の環境整備活動を通じて「きれいな熊本にする」ことを目標としている。今年度も江津湖湧水清掃を計画し、地域や加盟機関同士の連携を促進する。	学生・留学生・教職員の参加200人	7/13江津湖湧水清掃開催 参加者数 230人	達成1 未達0	当初の計画をほぼ実行でき、参加者数も目標数に達したが、申し込んだ留学生が参加しなかった。	学生が参加しやすい開催時期や清掃場所を学生とともに検討していく。	A
	地域行事・イベントへの参加事業	加盟機関に在籍する留学生およびその家族、日本人学生・教職員で構成する「大学コンソーシアム連」を結成し、火の国祭り「おてもやん総踊り」に参加する。熊本への留学の楽しさのアピールや、祭りを通じての地域住民との交流を深めることでの国際都市熊本をアピールする。	参加者数80人	8/3開催 参加者数 49人(内、留学生24名)	達成0 未達1	当初の計画通り、熊本市の祭りに参加したが、参加者数が目標数に達しなかった。	参加した留学生からは好評を得ており、周知の方法を検討し参加者増を図る。	B
4. 教育環境の向上	FD・SD	加盟機関の教職員の資質向上を目的として、現在のところ主にSDを実施している。外部講師による管理職研修、中堅職員研修、中堅職員フォローアップ研修のほか、業務種別ごとに関係する担当者の情報交換の場を作り連携促進も図っている。	実施件数5件	4件実施 管理職研修 15名 中堅職員研修 17名 フォローアップ14名 交流会(働き方改革) 26名	達成0 未達1	活動指標の実施件数5件に対し、交流会1件が大雨による中止のため4件の実施となった。	各機関独自のSD研修を行っていることもあり、各研修への参加者はあまり多くはないが、SD委員会で研修内容を協議しながら実施しており、今後も継続して教職員の資質向上を目指し、また、参加者数増にも取り組んでいく。	A
	医療福祉地域連携事業	障がいのある学生への教育サポートの充実を図るため、また、実務担当者が定期的に情報交換や勉強会を実施し連携を強めていくことで、担当者間の一層の連携強化を図る。講習会や講演会など実施し加盟機関の実務担当者のスキルアップを図る。	実施件数3件	3件実施 協議会7/24(12)、10/1(13) 講演会・協議12/13(20)	達成1 未達0	当初の計画を着実に実施しており、講演会では担当者以外の参加者もあり活発な活動ができた。	定期的に情報交換会や勉強会・講演会を開催し、他の委員会と合同で同一テーマの勉強会を行うなど、新たな取組みを検討する。	A
	男女共同参画推進連携事業	男女共同参画、ワークライフバランスの啓発等に資する事業を企画・実施する。また、加盟機関の教職員だけでなく学生の参加も考慮した介護と仕事の両立、人権啓発、ダイバーシティの推進に資する事業等にも取り組む。	実施件数1件	2件実施 介護に関する勉強会9/9 10名 マインドアップセミナー共催 10/19 26名(学生)	達成1 未達0	当初の計画を着実に実施しており、委員会を紹介するリーフレットを作成し配布した。	次年度は「LGBTs」をテーマに活動を計画、同じ課題を抱える他の委員会との共同講演会・勉強会を検討する。	A
	教員免許更新講習	・当該年度の教員免許更新講習の実施 ・翌年度の教員免許更新講習の開設準備 ・「教員免許更新講習管理システム」の共同運用 ・「受講料収納代行」(コンビニでの収納)の共同運用	実施件数200件	実施件数 207件(更新講習講座開講数)	達成1 未達0	活動指標を超える更新講習講座数を開設し、定員を上回る申し込み者のあった講座についても全員を受講させることができた。	次年度の受講予定者数を把握し、全員が受講できる講座数及び定員を確保する。	A
	学生交流推進事業	各機関から選ばれた学生で構成する学生企画委員会を設置し、学生自身が様々な企画を立案・実施している。学生の交流の場や新規事業の企画・提案の場としての合宿研修を企画している。	実施件数3件	4件実施 合宿5/11~12 10名 WAのこころ 観光 10/5 52名 文化体験10/12 50名 観光 12/8 45名	達成1 未達0	活動指標を超えるイベントを企画し実施できた。	学生企画委員会への出席者が少なく一部の学生だけで企画することが多かった。会議の開催時間・場所の問題もあったと思われるので、委員会の開催方法を検討する。	A

地域の課題	地域の課題解決に向けての達成目標	事業計画達成状況		R1年度の達成状況評価	評価理由	備考	全体評価					
県内進学者の増加と県外からの進学者の導入（課題アイウエ）	県内進学率50%以上 県外からの進学者2,500人以上	達成1 未達1	達成1 未達1	B	例年通り進学ガイダンスセミナーを実施し、計画通りに講座を開設できたが、参加者数は活動指標の目標値に満たなかった。一方で、本事業は、熊本県内の全大学・短大の一堂に会して体験授業や進学相談ができる唯一の機会であり、アンケート結果からも有意義であることは疑いなく、現状ではテーマ及び地域の課題に対して、一定程度貢献できていると言える。	学校基本調査によると、令和元年度においては、県内高校生の48%（3,918/7,999）が県内大学・短大に進学している。また、県外からの県内大学・短大進学者数は2,587名となっており、地域の課題を解決するにあたり設定した達成目標について、一部達成していることになる。学校基本調査は、5月1日時点での学生数等の調査であるため、令和元年度の本事業がこの結果に寄与したとは考えられないが、長年継続して実施してきた取組みとして、高校生の進路選びのきっかけとして一定の役割を果たしていると考えられる。また、テーマ及び地域の課題に対しては、複数の事業をもってアプローチする必要があると考えられるため、検討を要する。						
産学官連携の機会の増加（課題カキクケ）	産学官連携に基づく取組みの活性化 取組み件数4件 キャンパスパレアの講座数50%以上増 教育のあり方に関する協議の実施 年度内に3回実施 教育機関の連携事業5件以上	達成2 未達2	達成1 未達0	達成0 未達1	達成3 未達3	B	本テーマに関する3件の事業において6つの活動指標が設けられていたが、達成・未達成項目が3件ずつとなり、達成率が高いとは言えなかった。インターンシップ事業は、各大学でインターンシップのカリキュラム化が進むに従って制度の利用者も減少しており、一部目標値を達成できなかった。しかし、全国的に見ても珍しいしくみであり、私学事業団からも先駆的との評価を得ており、未だ十分に有意義な取組みである。インターンシップやキャンパスパレアなど、定着している取組みについてはその制度利用者数は安定化しているものの、産学官連携の強化のためにはさらに複数のチャンネルを検討する必要がある。それらを検討する機会として「教育のあり方に関する協議会」を初めて開催し、白熱した議論が展開されたが、3回の実施目標に対して1回しか開催できず、今後は産学官共通の課題を洗い出してテーマを絞って実施することが必要であると考えられる。 未達成項目が多いものの、個別の取組みにおける連携の質の高さは評価できる点であり、今後の改善に向けた努力は必要であるものの、安定的な運営を行っている点についても一定の評価ができるものと考えられる。	地域の課題解決に向けての達成目標に対して、現状では産学官連携に基づく取組みを4件に増やすことはできなかった。ただし、地域の企業や住民の利用も増え、既存の取組みの一つ一つは定着しているようであり、それぞれの目的は達成していると言える。今後は、県内の教育資源をどのように地域に還元するかを検討し、実現するため、教育のあり方に関する協議を効果的に行うことや、教育機関の連携を複数行うことを目指したい。				
国際交流の活性化（課題オ）	留学生の受け入れ態勢強化・留学生数増加に向けた誘致戦略の検討 留学生受け入れ数1000人	達成0 未達1	達成2 未達0	達成1 未達1	達成0 未達1	達成1 未達0	達成0 未達1	達成4 未達4	B	本テーマに関する6件の事業において8つの活動指標が設けられていたが、達成・未達成項目が4件ずつとなり、達成率が高いとは言えなかった。ほとんどの事業について実施することができ、一部は目標値を大きく上回るものもあり、成果を上げていると言える。反面、実施したが目標値に届かない項目も多く、学生への周知不足であることや、例年実施している取組みであるため良くも悪くも恒常化していることが考えられる。 本事業における取組を楽しみにしている学生もいることから、特に留学生に対しては極めて有意義な事業であることは間違いないと言える。一方で、目標とした取組み件数を達成できなかったものの、成果としての目標値を達成している事業もあり、1事業あたりの成果の質が求められるステージに達しているものと思われる。未達成事項の多さから、本テーマにおける評価はBとなるものと考えられる。	地域の課題解決に向けての達成目標については、留学生の受け入れ態勢強化・留学生数の増加に向けた誘致戦略の検討には至らず、留学生受け入れ数も704人（令和元年5月1日現在）と達成できる見通しがたっていない。個々の取組みを活性化することはもちろん、6件の事業を始め戦略に基づいた事業運営により4年後の目標達成を目指したい。	
地域における高等教育の環境を向上させるための包括的な取組み（課題コ）	熊本県の高等教育機関教職員の資質向上に関する取組みの実施 開催件数8件 参加者数150人 男女共同参画に関する取組み 参加者数80人 学生企画イベントへの参加者数350名	達成0 未達1	達成1 未達0	達成1 未達0	達成1 未達0	達成1 未達0	達成1 未達0	達成4 未達1	A	目標の未達成が1件あるが、天候により中止となったものであることから、事実上、すべての事業について活動指標に設けた目標値を達成したと言える、着実に成果を上げていると言える。取組み実施に関する目標を達成していることから、成果の質を向上させることが重要であると考えられる。地域の課題解決に向けての達成目標に対しても、一部はすでに達成の状況であり（熊本県の高等教育機関教職員の資質向上に関する取組みの実施 開催件数8件）、目標値の再検討も必要と考えられる。	活動指標及び地域の課題解決に向けての達成目標について、実施に関する目標値はすべての事業で上回っていることから、事業の成果を問う目標へ見直すことも検討が必要である。	

B